

第3次葛飾区環境基本計画

みんなでつくる 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか

～令和4年度進捗状況の報告について～

令和5年11月
葛飾区

第3次葛飾区環境基本計画の位置付けについて

本計画は、区の環境に対する考え方を明らかにするとともに、葛飾区基本構想に示された将来像「みんなでつくる、水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」を環境面から補完する位置付けにあります。環境に係る施策を中長期的な展望に立って、総合的・計画的に推進するための計画であり、各個別計画の策定や施策の実施に当たっての環境配慮の方向性を示すものです。

また、地球温暖化対策推進法に基づく「葛飾区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」、気候変動適応法に基づく「葛飾区気候変動適応計画」及び生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略である「生物多様性かつしか戦略」を包含する計画とします。

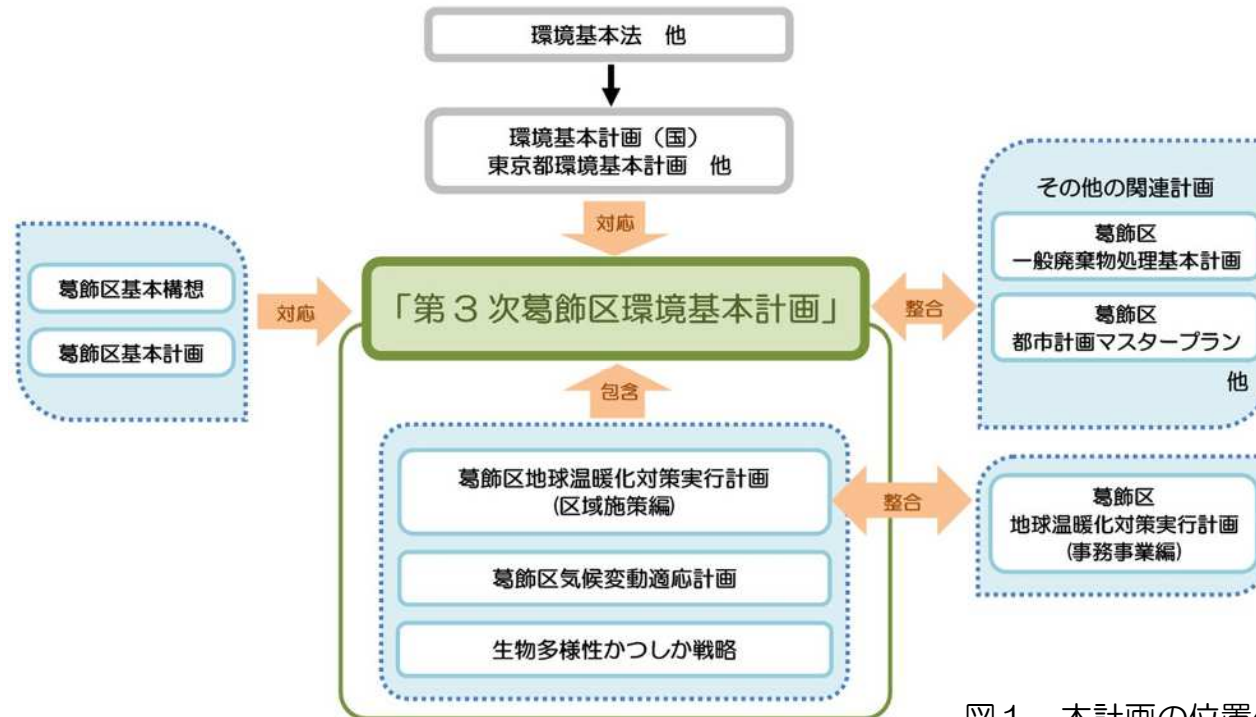


図1 本計画の位置付け

第3次葛飾区環境基本計画の目標について

本計画は、基本理念に基づいて将来的な区の在り方を示す望ましい将来像である「みんなで作る人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」を実現する目標として、5つの基本目標を設定しました。

5つの目標は、相互に関わり合い、切り離すことができないものであり、いずれかの目標のみを優先させることなく、全ての目標の達成に向けて取り組むことが重要です。

全ての基本目標における施策や事業に対して真摯に取り組み、時には連携し同時解決を図ることで望ましい将来像の達成を目指します。

基本理念

私たちは、大気や水、ごみ、生きものなどの暮らしに身近な環境問題から、地球温暖化といった世界的な環境課題、大型台風の上陸や猛暑などの気候変動やウイルスによる感染症拡大といった、これまで経験したことのない新たな環境問題にも、オールかつしかで力を合わせて乗り越える必要があります。

私たちが将来にわたって安心して幸せな生活を送り、事業活動のさらなる充実を図っていくためには、社会経済活動やライフスタイル・ビジネススタイルを振り返りながら、区民・事業者・区の連携・協働によって、経済・社会・環境の3側面での統合的向上を図り、次世代へ継承する自然環境の恵み豊かな持続可能なまちをつくります。

望ましい将来像

「みんなで作る 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」

5つの基本目標

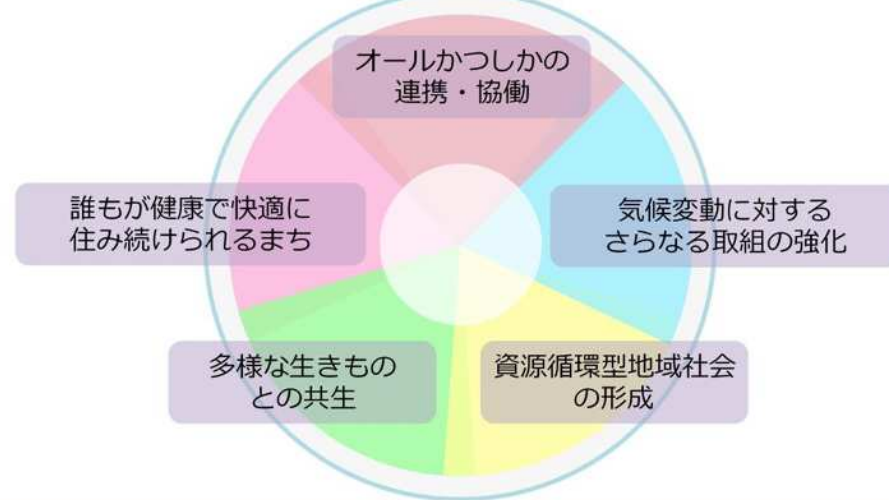
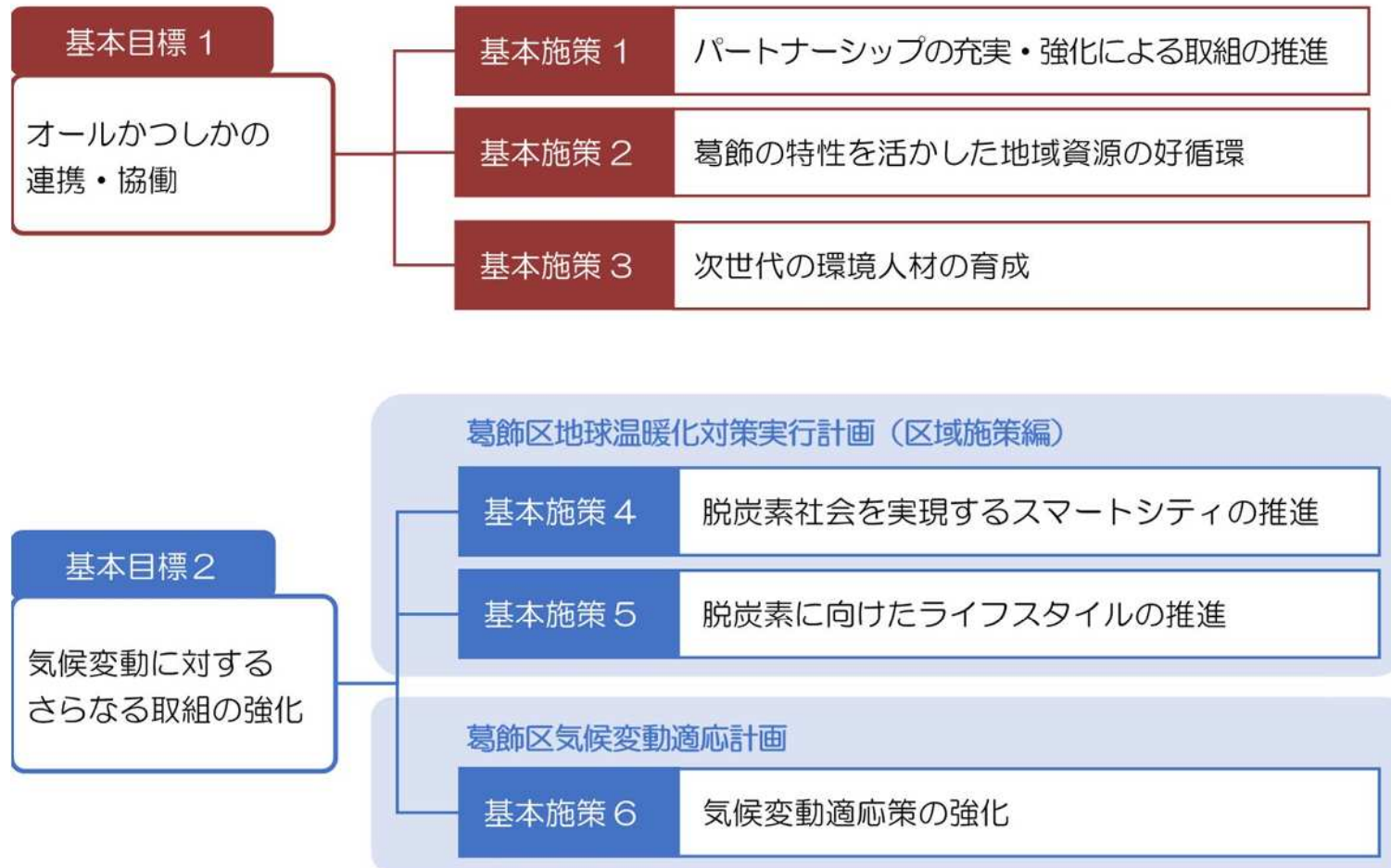
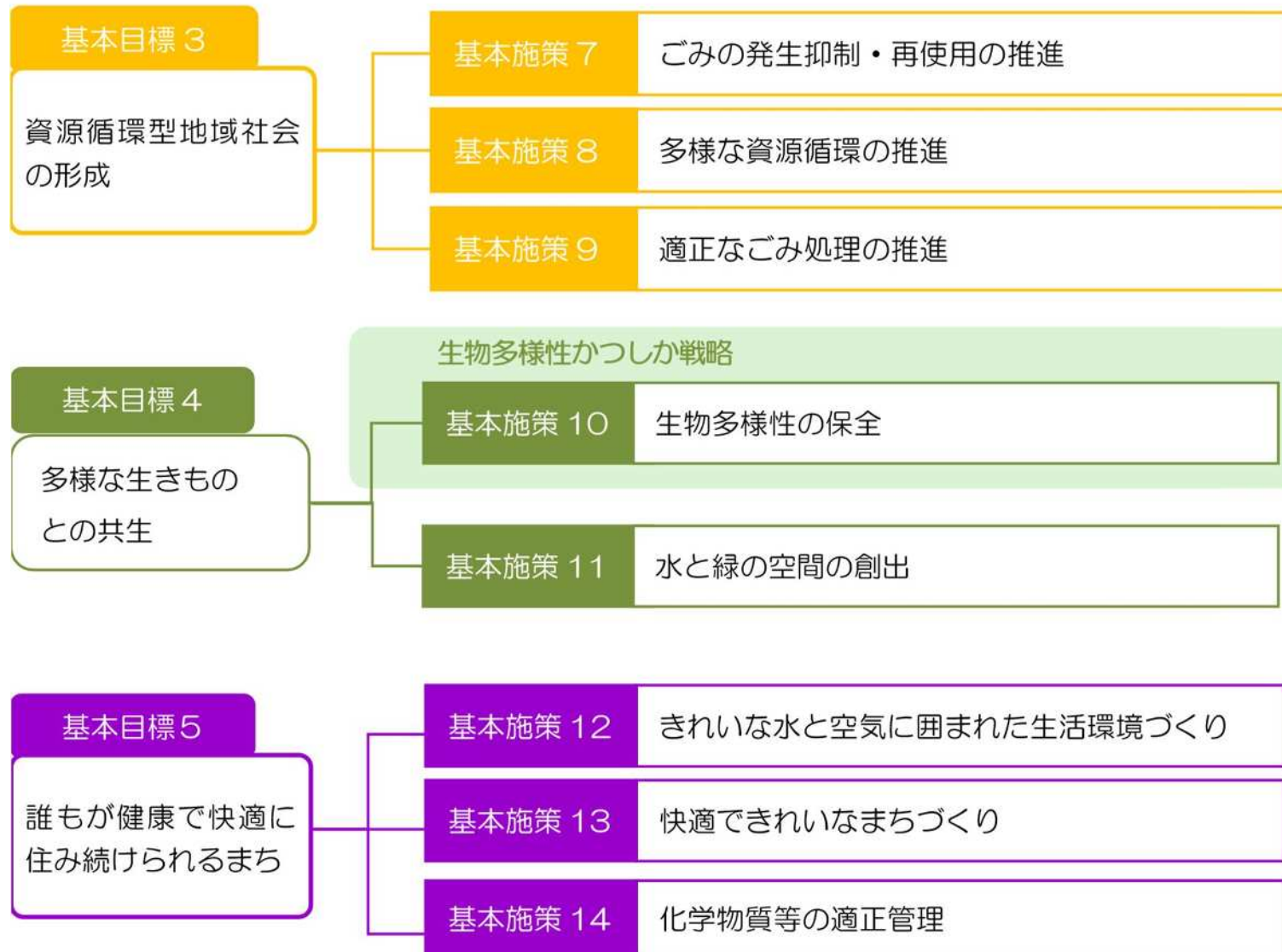


図2 基本理念・望ましい将来像・基本目標のイメージ

第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の進行管理について

本計画を実効性のあるものとするためには、施策の実施状況、関連する成果指標の推移などの点検を行い、その結果に基づき、改善をしていくPDCAのサイクルが必要です。

そこで、本計画の進捗管理に当たっては、気候変動、自然環境、都市緑化、資源循環に関連する学識経験者や環境に関する協議会をはじめとした区民団体、公募区民、区内の学生などで構成する環境審議会において、計画の進捗管理や見直しに関する事項、環境の保全に関する施策に関する事項等について審議し、次年度以降の取組につなげていきます。

今後も、継続的にPDCAサイクルを実施する中で、施策の進捗状況、国や都の計画策定等の動向、社会情勢の大きな変化等を踏まえ、適宜、目標及び施策の強化などの見直しを検討していきます。

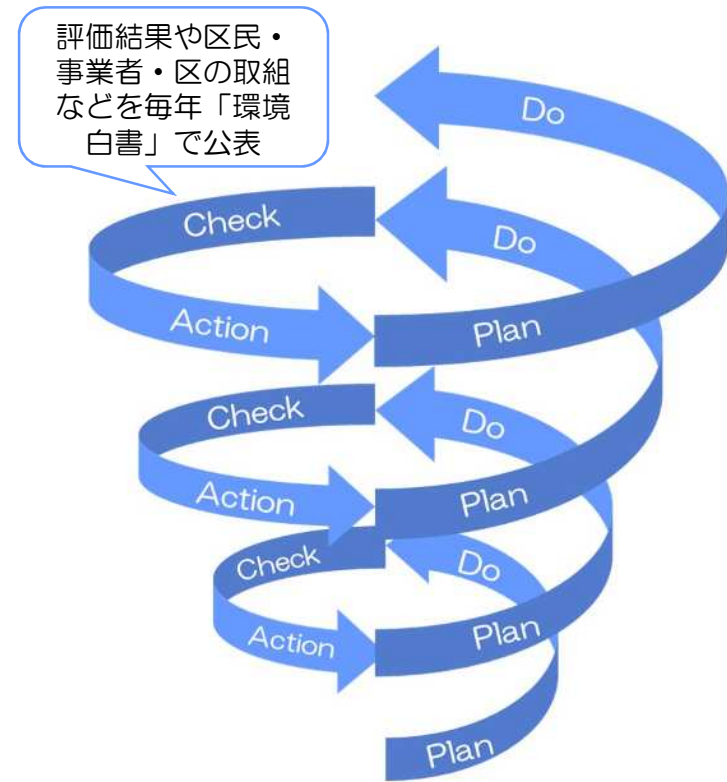


図3 PDCAサイクルのイメージ

目 次

基本目標1	オールかつしかの連携・協働	-----	1
	基本施策1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進	
	基本施策2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環	
	基本施策3	次世代の環境人材の育成	
基本目標2	気候変動に対するさらなる取組の強化	-----	5
	基本施策4	脱炭素社会を実現するスマートシティの推進	
	基本施策5	脱炭素に向けたライフスタイルの推進	
	基本施策6	気候変動適応策の強化	
基本目標3	資源循環型地域社会の形成	-----	13
	基本施策7	ごみの発生抑制・再使用の推進	
	基本施策8	多様な資源循環の推進	
	基本施策9	適正なごみ処理の推進	
基本目標4	多様な生き物との共生	-----	16
	基本施策10	生物多様性の保全	
	基本施策11	水と緑の空間の創出	
基本目標5	誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち	-----	19
	基本施策12	きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり	
	基本施策13	快適できれいなまちづくり	
	基本施策14	化学物質等の適正管理	

基本目標 1		オールかつしかの連携・協働			
基本施策1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進				
基本施策2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環				
基本施策3	次世代の環境人材の育成				
施策の目標					
指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値	
基本施策1 パートナーシップの充実・強化による取組の推進					
省エネを心掛けている区民の割合 (%) ※1	83.2% (令和2年度)	83.3%	85.9%	95.2% (令和13年度)	
二酸化炭素吸収量 (t-CO2/年) ※2	842t-CO2 (令和元年度)	—	—	1,263t-CO2 50%増加 (令和13年度)	
花いっぱい活動に取り組む活動箇所数 (箇所)	150箇所 (令和2年度)	153箇所	152箇所	216箇所 (令和13年度)	
基本施策2 葛飾の特性を活かした地域資源の好循環					
「SDGs (持続可能な開発目標)」を知っている区民の割合 (%) ※3	39.4% (令和2年度)	—	—	100% (令和13年度)	
基本施策3 次世代の環境人材の育成					
イベント来場者数 (人) ※4	9,400人 (令和元年度)	中止	7,000人	11,500人 (令和13年度)	

※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」調査報告書(10年に1度実施)の数値を基に区独自で推計

※3 葛飾区世論調査(3年に1度実施)

※4 イベント内訳: かつしか環境・緑化フェア、ごみ減量・清掃フェアかつしか

令和4年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 協働による花いっぱいのもちづくりの推進</p> <p>(1) 東京2020大会レガシーの取組 かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会及び葛飾区緑化推進協力委員会と実施しました。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会1周年を記念して、大会期間中に競技会場聖火台周辺を彩ったフラワーメリーゴーランドなどによる「花いっぱいでおもてなし」を写真パネルで紹介する「花いっぱいでおもてなし展」を区役所区民ホール・日比谷公園ガーデニングショーで開催しました。 東京2020大会のレガシーとして、都立シンボルプロムナード公園内に有明聖火台が令和4年10月に大会レガシーとして設置されることとなりました。有明聖火台設置に合わせ、本区から東京都へフラワーメリーゴーランド4基を寄贈し聖火台を取り囲むように設置されました。 <p>(2) 花いっぱいのもちづくりの担い手の拡大 花いっぱいのもちづくりの担い手の裾野を広げるため、個人や家庭を対象とした「まちかどマイガーデン」事業を実施しました。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の工作教室「リユース部品で作る花の壁飾り」 中学生以下のお子さんと保護者を対象とした工作教室 「季節の花のコンテナガーデンづくり」 会場での受講とオンライン会議システムによる受講により参加機会を拡充しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会レガシーの有明聖火台周辺にフラワーメリーゴーランドが4基設置されたことは、協働で進めてきた「花いっぱいでおもてなし」の成果のひとつとなりました。 区民ボランティアによる地域での花壇活動は新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえ、日常の活動範囲内で継続され活動箇所は前年から減少しましたが、コロナ禍前の水準を維持することができました。 花いっぱいのもちづくり活動をより活性化するために、全国規模のイベントの開催を検討します。

令和4年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ サステナブル・リカバリーによる区内産業の活性化 区内のSDGs活動を促進するため、SDGs達成に向け目標を決め宣言した事業者等に「SDGs宣言証」を発行し、取組内容を区ホームページ等で公表しました。 【実績】 宣言数：累計111件（令和5年8月25日現在）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 五泉市との児童交流事業については、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりリモート等の交流でしたが、令和4年度は例年どおり、葛飾区の児童が五泉市を訪問し児童交流も更に深まりました。訪問した児童たちにとっても、自然体験や多くの事を学べるものとなり、今後も継続して実施していく必要があります。 今後は児童交流事業に加え、森林整備事業などで地域間連携を深めていきます。 森林整備を通じて、区内で発生する二酸化炭素と森林が吸収する二酸化炭素を相殺するカーボン・オフセット事業を行い、地球温暖化対策に寄与していきます。
<p>◆ 地域外との連携による取組</p> <p>(1) 葛飾区と五泉市との児童交流事業 小学生などが五泉市を訪問し、五泉市の自然を体験することにより、都市型の葛飾の自然と対比し自然や生物多様性の素晴らしさや大切さを学んでもらうことを目的に実施しています。 【実施内容】 金町小学校4名、松上小学校2名の児童が、五泉市五泉小学校を訪問し、サケの発表会、五泉市に関するクイズ、給食を一緒に食べる等によって児童交流を深めました。</p> <p>(2) 森林整備の推進 森林整備を推進するため、以下の包括連携協定締結先と森林整備に係る協定を締結しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟県五泉市（令和5年2月13日協定締結） 秋田県鹿角市（令和5年2月21日協定締結） 	

令和4年度の主な取組結果						評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 環境学習の推進</p> <p>(1) 環境学習の実施 環境行動の普及・啓発を行うため、家庭や学校などに対し、環境学習の教室や講座を実施しました。 【主な環境学習事業】 再生可能エネルギーの環境学習教室、親子自然観察会、区民エコライフ学習講座、親子体験「LED電球でランプシェード作り」、夏休みリサイクル教室、出前講座、鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会、かつしかっ子探検隊、3R推進パートナー養成講座など</p>						<ul style="list-style-type: none"> 環境学習やイベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした年度もありましたが、令和4年度は感染症対策を講じた上で、概ね実施することができました。今後も、環境行動の普及・啓発に取り組んでいきます。
<p>◆ イベントの推進による普及啓発</p> <p>(1) かつしか環境・緑化フェアの開催</p>						
入場者数（人）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
テクノプラザ かつしか	3,500	4,700	中止	中止	3,600	
<p>(2) ごみ減量・清掃フェアかつしかの開催</p>						
入場者数（人）	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
葛飾清掃工場	5,700	4,700	中止	中止	3,400	

基本目標2

気候変動に対するさらなる取組の強化

- 基本施策4 脱炭素社会を実現するスマートシティの推進
- 基本施策5 脱炭素に向けたライフスタイルの推進
- 基本施策6 気候変動適応策の強化

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値
基本施策4 脱炭素社会を実現するスマートシティの推進				
区内の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ eq） （平成25年度からの削減率）	1,463千t-CO ₂ 12.1% （平成30年度）	1,415千t-CO ₂ 15.0% （令和元年度）	1,388千t-CO ₂ 16.6% （令和2年度）	832千t-CO ₂ 50% （令和12年度）
区内の再生可能エネルギー導入率（kW）	26,364kW （令和2年度）	27,386kW	28,931kW	41,475kW （令和12年度）
区内のエネルギー消費量（TJ） （平成25年度からの削減率）	15,240TJ 11% （平成30年度）	14,971TJ 12.6% （令和元年度）	14,557TJ 15.0% （令和2年度）	11,993TJ以下 30%以上 （令和12年度）

※区内乗用車のZEVの割合の指標は、算定で使用する値の一部が未公表のため記載を省略。

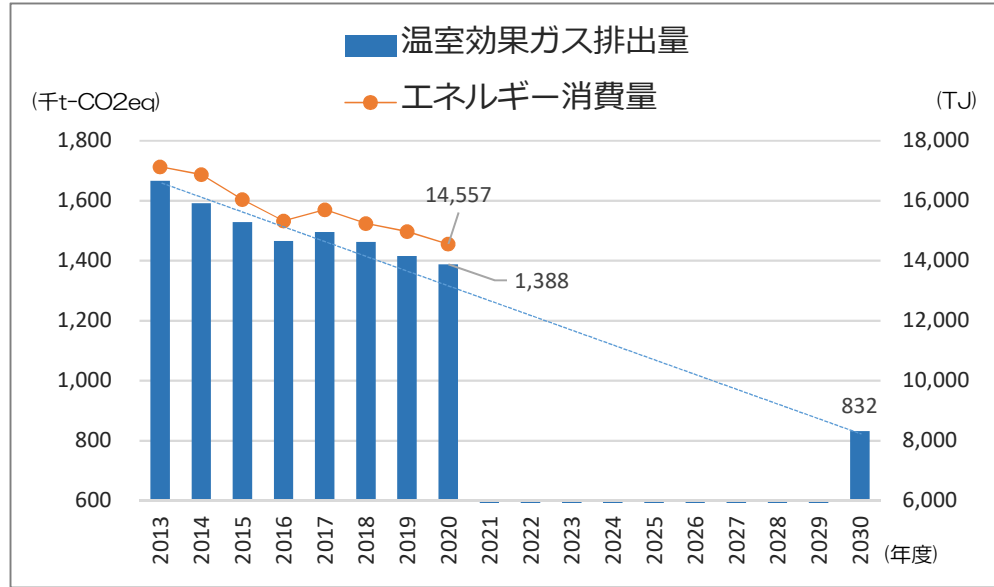
施 策 の 目 標

指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値
基本施策5 脱炭素に向けたライフスタイルの推進				
家庭部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	554千t-CO ₂ 14.3% （平成30年度）	538千t-CO ₂ 16.6% （令和元年度）	553千t-CO ₂ 14.3% （令和2年度）	323千t-CO ₂ 以下 50%以上 （令和12年度）
業務部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	325千t-CO ₂ 13.3% （平成30年度）	307千t-CO ₂ 18.2% （令和元年度）	296千t-CO ₂ 21.0% （令和2年度）	187千t-CO ₂ 50%以上 （令和12年度）
区の事務事業による温室効果ガス 排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	23,403千t-CO ₂ 26.3% （令和2年度）	23,857千t-CO ₂ 24.9%	23,591千t-CO ₂ 25.7%	15,877千t-CO ₂ 51% （令和12年度）
基本施策6 気候変動適応策の強化				
区内の熱中所搬送者数（人）※1	223人 （令和2年度）	120人	178人	200人以下を 維持 （令和13年度）
気候変動適応策を知っている 区民の割合（%）※2	25.8% （令和2年度）	36.1%	35.3%	50% （令和13年度）
区の防災対策が進んできていると思う 区民の割合（%）※2	38.5% （令和2年度）	36.0%	35.7%	50% （令和12年度）

※1 救急活動の現況（東京都消防庁）

※2 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

葛飾区における温室効果ガス排出量の現況について



➤ 現況

- 令和2（2020）年度の温室効果ガス排出量は、前年度から約2万7千t-CO₂eq減少しました。
- 平成25（2013）年度を基準とした削減率は、前年度と比較して約1.6%減少しました。

➤ 考察

全体の排出量が減少した要因は、省エネ設備・機器の普及が順調に進んでいることや、電力の発電構成の変化（再生可能エネルギー電力等の比率の増加）等の影響が大きいと考えられます。

家庭部門の排出量が増えた要因は、コロナ禍による在宅時間の増加に伴う家庭でのエネルギー消費量の増加によるものと考えられます。

単位：千t-CO₂

項目/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 元年度 (2019)	最新年度 令和 2年度 (2020)	目標年度 令和 12年度 (2030)
温室効果ガス 排出量 (千t- CO ₂ eq) (基準年度比)	1,665	1,415 (▲15.0%)	1,388 (▲16.6%)	832 (▲50%)
エネルギー消費 量 (TJ) (基準年度比)	17,132	14,971 (▲12.6%)	14,557 (▲15.0%)	11,993 (▲30%)

部門/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 元年度 (2019)	最新年度 令和 2年度 (2020)	目標年度 令和 12年度 (2030)
産業	173	135	117	90
家庭	646	538	553	310
業務	375	307	296	186
運輸	350	267	249	149
廃棄物	52	59	60	33

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 再生可能エネルギーへの利用転換の拡大 (1) 太陽光発電システム及び蓄電池の設置助成 再生可能エネルギーの利用拡大を図るため、家庭向け・事業者向けそれぞれで設置費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電システムや蓄電池の助成件数は年々増加傾向にあり、本助成は再生可能エネルギーの利用拡大に寄与していると評価しています。 引き続き助成金等を通して、区内の再エネ導入を推進していきます。
太陽光発電システム（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	124	180	276	
事業者向け	7	4	7	
合計（件数）	131	184	283 (+99)	
合計出力数（kW）	612.1	764.6	1267.1	
本事業で導入した太陽光発電システムの 累計年間発電量（kW）	13,669.4			
令和4年度の年間発電量・・・336世帯に相当 累計年間発電量・・・3,629世帯に相当 ※令和3年度の関東甲信地方の1世帯当たりの年間電気消費量 3,767kWh（環境省「令和3年度 家庭部門のCO2排出実態統計調査 資料編（確報値）」）を用いた推計				
蓄電池（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	209	215	337	
事業者向け	3	3	6	
合計	212	218	343 (+125)	

令和4年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>(2) 区施設への太陽光発電システム及び蓄電池の導入 令和4年度に高砂小・中学校、西小菅小学校に太陽光発電システム及び蓄電池を設置しました。</p> <p>【設置容量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 高砂小・中学校 <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電容量：22kW 蓄電池容量：5.5kWh ➤ 西小菅小学校 <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電容量：10kW 蓄電池容量：1.2kWh 	<ul style="list-style-type: none"> • 区有施設への太陽光発電システム及び蓄電池の設置について、令和5年度は2施設への設置を予定しています。 今後も新築や改築にあわせて順次設置していきます。
<p>(3) 区施設の再生可能エネルギー電力（RE100）への切替え 区施設で使用する電力の一部を二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギー電力（RE100）に切り替えました。 スポーツ施設の再エネ電力は、リバースオークションサービスを利用して導入しました。</p> <p>【再生可能エネルギー電力導入施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本庁舎 • 指定管理者が管理するスポーツ施設 （葛飾区奥戸総合スポーツセンター、葛飾区水元総合スポーツセンター、葛飾区東金町運動場、葛飾区小菅西公園フットサル場、葛飾区上千葉公園運動場、葛飾区葛飾にいじゅくみらい公園運動場、葛飾区金町公園プール） 	<ul style="list-style-type: none"> • 再生可能エネルギー100%電力への切替えについても順次進めていく方針で、今後は新清掃事務所でも導入を予定しています。 令和5年度からスポーツ施設に加え、本庁舎でもリバースオークションサービスを利用したことで、調達価格の抑制と調達先の確保に努めました。

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>(1) 遮熱塗装等断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化及び省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業者向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの高効率化に向けて、引き続き遮熱塗装等断熱改修等の助成金により、区内の省エネ化を後押ししていきます。 遮熱塗装等断熱改修について、令和5年度より「高反射率塗装」と「断熱改修」のそれぞれの項目で助成を行う仕組みにすることで、より利用しやすい助成内容に更新しました。
遮熱塗装等断熱改修（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	374	511	575	
事業者向け	6	15	8	
合計（件数）	380	526	583 (+57)	
LED照明機器（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	49	68	71	
事業者向け	40	48	25	
合計	89	116	96 (▲20)	
エネファーム（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	99	66	28 (▲38)	

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>(1) 遮熱塗装等断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化及び省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業者向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 家庭向けのゼロエネルギーハウス（ZEH）及び東京ゼロエミ住宅への助成は、令和5年度に新設の高断熱住宅への助成に統合することで、より利用しやすい助成内容に更新しました。 今後も区民が助成金を利用しやすいよう、助成内容の見直しや手続きの簡潔化を検討していきます。 区有施設の省エネ化については、費用面に課題がありますが、引き続きZEB Ready以上の認証を目指し、新築や改築、改修を進めていきます。
HEMS（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	69	125	154 (+29)	
ゼロエネルギーハウス（ZEH）（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	2	3	1 (▲2)	
空調機器改修（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
事業者向け	17	39	29 (▲10)	
<p>(2) 区施設のZEB化 令和6年度開設予定の新清掃施設・新清掃事務所棟において、令和4年12月に葛飾区の区有施設で初のZEB Ready認証を取得しました。</p>				

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 次世代自動車（ZEV）の普及促進</p> <p>（1）次世代自動車等に対する助成 次世代自動車の普及を促進するため、電気自動車や燃料電池自動車など環境にやさしい自動車を導入する際の費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車の助成件数が令和4年度に大幅に増加したことから、本助成は区内の電気自動車の普及に寄与していると評価しています。引き続き電気自動車の普及を推進していきます。 また、電気自動車の普及を図るためには、電気自動車用の充電設備を整備する必要があることから、令和4年度から新たに集合住宅及び事業者向けに電気自動車用の充電設備の助成金の項目を設けました。 施策の目標のうち、基本施策6「気候変動適応策を知っている区民の割合」は4割を切っており、目標達成には周知啓発をより一層推進する必要があります。引き続き「緑のカーテン」事業をはじめ、様々な機会に気候変動適応策の普及・啓発を図っていきます。
電気自動車（件）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
家庭向け	10	10	119	
事業者向け	3	4	6	
合計（件数）	13	14	125 (+111)	
<p>◆ 暑さに対する適応</p> <p>（1）緑のカーテン事業 夏の暑さを和らげる効果のある「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、区民向けに講習会を5会場で実施し、気候変動への適応の必要性を普及啓発しました。</p>				

基本目標3

資源循環型地域社会の形成

- 基本施策7 ごみの発生抑制・再使用の推進
- 基本施策8 多様な資源循環の推進
- 基本施策9 適正なごみ処理の推進

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値
基本施策7 ごみの発生抑制・再使用の推進				
区民一人一日当たりの 家庭ごみ量 (g)	495g (令和元年度)	492g	472g	425g (令和12年度)
事業系ごみ 年間総排出量 (t)	23,856t (令和元年度)	22,286t	23,270t	23,805t (令和12年度)
基本施策8 多様な資源循環の推進				
資源回収率 (%)	22.1% (令和元年度)	23.4%	23.5%	27% (令和12年度)

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進				<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、コロナ禍による制限が緩和されたことにより環境学習やイベント等、啓発の機会が大幅に増加しました。また、フードドライブの常設窓口が増加したことで、食品の提供数も増加しています。今後も家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進について啓発を実施していきます。 区民一人当たりの家庭ごみ量は、外出抑制が解除されたことや、かつしかルールの推進によるごみ発生抑制の取組により減少しました。事業系ごみについては目標値に達していますが、コロナの影響によって抑制されていた事業活動の再開に伴い増加傾向となる見込みであるため、引き続き目標値を維持するために事業者向けの環境学習など啓発に取り組んでいきます。
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
環境学習の実施（回）	39	78	101	
イベントにおける区民参加型普及啓発回数（回）	1	2	11	
生ごみ処理機、コンポスト化容器の購入費助（件）	265	136	102	
フードドライブの実施（件）	5	11	18	
不用品交換情報の発信（情報登録件数：件）	66	75	138	
◆ 事業所から出るごみの発生抑制・再使用の推進				
かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会を通じた事業者への啓発	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
啓発グッズ・啓発チラシ・容器包装削減ポスター配布数（件）	21,381	20,124	22,262	

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出る資源の循環、ごみの適正排出に向けた取組				<ul style="list-style-type: none"> 「ごみ性状調査」によると、燃やすごみ、燃やさないごみの中には、依然として資源が混入している状況です。区は資源とごみの収集カレンダーなどを通じて資源の適正排出の周知に努めるとともに、適正排出の向上に向けて環境学習等事業を実施していきます。 一方で、家庭から適正に排出されているごみの中にも、製品プラスチックをはじめとして、資源化が可能な物が多数含まれています。今後は製品プラスチックの資源化について、具体的な検討を進めていきます。 資源回収率については、令和3年度より燃やさないごみからの資源化品目を拡大した結果、開始時より上昇しました。今後とも、令和12年度の目標達成に向けて、資源循環型社会の形成のための施策を実施していきます。
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
プラスチック容器包装の適正排出の啓発（資源とごみの収集カレンダーの印刷作成部数：件）	261,000	268,470	274,000	
不法投棄防止対策（不法投棄防止看板の配布数：枚）	18	16	105	
（3）ボトルtoボトルの推進 <ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人全国清涼飲料連合会と協働し、区民や事業者へボトルtoボトルによる水平リサイクルについて啓発を行いました。 小学生を対象としたプラスチックに関する環境学習を実施しました。 プラスチックの代替素材の利用拡大やプラスチックの使用削減に向け、イベント等でバイオマス素材などの活用を促進する啓発活動を行いました。 				
（4）燃やさないごみの資源化の開始 令和4年度は金属類、小型家電、スプレー缶、蛍光管、小型充電式電池、ダンボール、再利用可能な食器の資源化を行いました。				
◆ 効率的・効果的な清掃事業の推進				
地域の実情に即した収集サービス	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
高齢者世帯等への訪問収集世帯数（世帯）	509	542	550	
まちの美観向上を目的とした個別収集（件）	2,777	2,787	2,681	

基本目標4

多様な生き物との共生

基本施策10 生物多様性の保全
基本施策11 水と緑の空間の創出

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値
基本施策10 生物多様性の保全				
自然を大切にしている行動をしている区民の割合(%)※1	72.3% (令和2年度)	71.4%	71.1%	86.0% (令和13年度)
生き物調査において確認した自然環境の保全率(%)	89% (令和元年度)	64%	56%	100% (令和13年度)
自然環境学習に参加する区民の数(人)	1,109人 (令和元年度)	699人	1,045人	1,230人 (令和13年度)
基本施策11 水と緑の空間の創出				
緑被率(%)※2	18.3% (平成30年度)	—	—	20.0% (令和10年度)
水辺が親しめる空間となっていると思う区民の割合(%)※3	59.7% (令和2年度)	58.4%	59.9%	66.4% (令和13年度)
緑と花の豊かさを感じる区民の割合(%)※3	65.5% (令和2年度)	65.5%	66.9%	70.3% (令和13年度)
区民一人当たりの公園面積(m ²)※4	4.36m ² (令和2年度)	4.37m ²	4.39m ²	4.46m ² (令和12年度)

- ※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」調査報告書(10年に1度実施)
 ※3 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※4 葛飾区基本計画に拠る(計画期間:令和3年度~令和12年度)

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 貴重な自然環境の保全・再生</p> <p>(1) 大場川中州清掃作業の実施 中州を上流部分から3分の1ずつに分け、毎年度清掃作業を実施しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 自然保護区である大場川中州及び水元さくら堤の保全を行っています。大場川中州の廃棄物については、ここ数年、若干の増減はあるものの概ね横ばいの数値となっています。引き続き適切な保全を行っていきます。 捕獲数、捕獲率は年々上がっているため、箱罟の設置が適切であったと考えられます。しかし一方で、区内に生息するアライグマ・ハクビシンが増えているとも考えられます。今後の推移を注視しながら、継続して箱罟を設置していきます。
【廃棄物処理実績】	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
一般廃棄物 (kg)	3,910	2,340	2,510	
産業廃棄物 (kg)	200	40	195	
合計 (kg)	4,110	2,380	2,705	
<p>(2) 水元さくら堤除草作業の実施 毎年度4、5、7、9月に除草作業を、12月にフジバカマの切り戻し作業を実施しています。</p>				
<p>◆ 在来種の保護</p> <p>アライグマ（特定外来生物）、ハクビシン（外来生物法による指定なし）から在来種を守るため、区では個人宅を対象に捕獲用箱罟を設置しています。</p>				
【箱罟設置件数・アライグマ、ハクビシン捕獲数・捕獲率】	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
箱罟設置件数	103件	95件	134件	
捕獲数	29頭	34頭	54頭	
捕獲率	28%	36%	40%	

令和4年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 生物多様性に関する情報収集・普及啓発 (1) 外来種に関する情報発信 本区の環境を保全するために対応が必要な外来種（アメリカオニアザミやクビアカツヤカミキリ等）について広報かつしかや区ホームページで注意喚起を実施しました。</p>				<p>• 環境教育の一環として、児童が総合的に学び、環境行動を実践できるよう「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、区立小・中学校に配布しています。今後も授業の補助教材として活用するほか、自主学習ツールとしても活用いただき、環境教育を推進していきます。 なお、今後は教育のデジタル化に対応したものとしていきます。</p> <p>• 条例に基づく令和4年度の緑化指導の確認は102件、32,381㎡となりました。今後も適切な指導を行っていきます。</p>
<p>◆ 自然環境を守り、育てる担い手の育成 (1) 環境学習用教材「エコかつ」の活用 「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、全ての区立小・中学校に配布しました。</p>				
<p>◆ 緑と花のまちづくりの推進 (1) 緑化指導 身近な緑を増やし、快適で良好な生活環境を実現するため、一定規模以上の敷地面積に建築などを行う区民及び事業者に、緑化計画の届け出を義務付け、新たな緑の創出を図りました。</p>				
【緑化指導実績】	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
確認件数（件）	110	100	102	
確認面積（㎡）	17,156	16,895	32,381	
<p>(2) 「フラワーメリーゴーランド」導入の推進 公共空間への新たな花の展開手法を発信することによりフラワーメリーゴーランドなどの導入が進みました。 【導入場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 神奈川県立相模原公園 4基 （設置主体は公園指定管理者） • 有明聖火台周辺 4基 （東京2020大会レガシー設置に合わせて区が都に寄贈） 				

基本目標5

誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち

基本施策12 きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり
 基本施策13 快適できれいなまちづくり
 基本施策14 化学物質等の適正管理

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和3年度	令和4年度	目標値
基本施策12 きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり				
大気（NO ₂ ・SPM）の環境基準値達成状況 （測定4局）※1	達成 （令和2年度）	達成	達成	維持 （令和13年度）
大気（O _x ）の環境基準値達成状況 （測定1局：水元）※2	未達成 （令和2年度）	未達成	未達成	達成 （令和13年度）
河川水質（BOD）の環境基準値達成率（%） ※3	100% （令和2年度）	100%	100%	維持 （令和13年度）
基本施策13 快適できれいなまちづくり				
生活環境に関する苦情件数（件）※4	483件 （令和2年度）	381件	262件	173件 （令和13年度）
区内がごみのない、きれいで清潔なまちになっていると思う区民の割合（%）※5	47.3% （令和2年度）	50.4%	53.5%	60% （令和12年度）

※1 NO_x（二酸化窒素）、SPM（浮遊粒子状物質）

※2 O_x（光化学オキシダント）

※3 3河川（江戸川・新中川・綾瀬川）の調査地点3か所における環境基準値適合検体数／総測定検体数（%）

※4 目標値は2019（令和元）年度の苦情件数（259件）を基準として設定

※5 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

令和4年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 河川、池、水路の水質向上対策の推進 (1) 河川水質調査の実施状況 区内の河川の水質を監視するため、江戸川、新中川、綾瀬川の3か所にて水質調査を継続して実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度において、水質は全ての河川で環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていきます。
<p>◆ 大気汚染などの防止の推進 (1) 大気汚染常時監視の実施状況 区内の大気環境について、汚染状況や経年変化を把握するため、4か所に測定局を設置し、常時監視を実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度において、大気は光化学オキシデントを除き、環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていくとともに、光化学オキシデントについては、ホームページやリーフレットなどにより普及・啓発を継続していきます。
<p>◆ 騒音、振動、悪臭などの防止の推進 (1) 工場等苦情処理 工場や指定作業場などから発する騒音・悪臭・振動についての苦情・相談に迅速に対応し、生活環境の保全に努めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境に関する苦情については、引き続きお互いに配慮することの重要性を啓発していくほか、区民の生活習慣の変化に柔軟に対応していきます。